



インド便り



インドの新首相 ナレンドラ・モディ氏

#2 2014

インド大使館

インド大使より



「インド便り」2014年第2号を発行できることをたいへん嬉しく思います。今号の最も重要なハイライトは、世界でも最大規模の民主主義の実践である、インドの総選挙です。今回の総選挙は2014年の4月から5月にかけての約一ヶ月間、8億人を超える有権者を対象に、インド政府の新たなメンバーを選出するため、インド全土で10段階に分けて実施されました。インド国民が安定した力強い政府を求めて投票した結果、インド人民党(Bharatiya Janata Party, BJP)率いる国民民主同盟(National Democratic Alliance, NDA)がインド議会下院(Lok Sabha)議席の過半数を得ました。BJPは下院の総議席数543のうち282を勝ち取り、単独過半数を獲得しました。インドでは過去30年間連立政権が続いており、一つの政党が過半数を取ったのは、1984年以来のことでした。今回の選挙結果は、国の発展と政府の安定を願う国民の声がもたらしたものです。西部グジャラート州の州首相として豊富な政治経験を持つナレンドラ・モディ氏は、2014年5月26日、インドの新首相に就任しました。今号では日本の読者のために、モディ首相の類まれな経歴をご紹介します。

また、今号では、4月のインド外務次官来日や、インド大統領により民間人を対象とした賞の中で最も荣誉あるパドマ・シュリ賞が著名なインド哲学者・仏教学者である前田専学博士に授与されたことなど、他にも多くの重要な出来事が網羅されています。インド大使館はこの冬から春にかけても、日本の皆様とよりお近づきになるために様々なイベントを行いました。インドは2014年のさっぽろ雪まつりに参加しましたが、イティマド・ウッダウラ廟の雪像は最も人気ある展示物の一つとなりました。5月には、カタック舞踊団とカタカリ舞踊団が来日し、沖縄から東北地方にいたるまで日本各地で公演を行いました。舞踊団の東北への派遣が地元の皆様に喜んでいただけたのは、大変嬉しいことでした。また千鳥が淵のお花見の時期には、大使館の敷地内で5日間サクラフェスティバルを開催し、数千人ものお客様にいらしていただきました。

インドにおける世界遺産に関する連載では、南部タミルナドゥ州マハーバリプラムの美しい寺院群を紹介しました。3世紀から9世紀にかけて、マハーバリプラムはパッラヴァ王国の首都であり、インドと東南アジアとの貿易の拠点となっていました。日本の友人の皆様も、何世紀も良い状態で保存されてきたこの史跡の探検をきっと楽しんでくださると確信しています。また、インド料理のお好きな読者のために、インドのチキンカレーのレシピも掲載しました。皆様にも是非インドのカレーを作っていただきたいと思います。

読者の皆様がこの「インド便り」をお楽しみ下さることを願っております。また、本誌がより良い雑誌となり皆様のお役に立てますよう、御助言をいただけましたら幸いと存じます。

(ディーバ・ゴバラン・ワドワ)



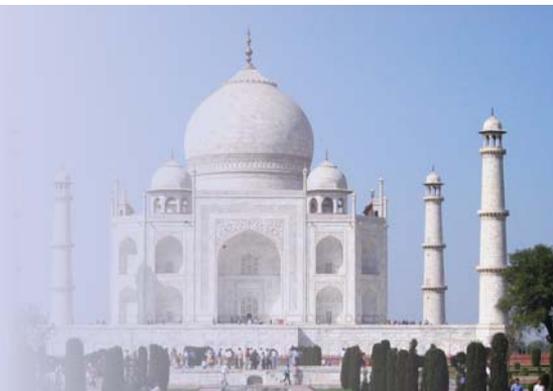
Contents

i. インド総選挙ーナレンドラ・モディ氏インド首相に選出される.....	4
ii. スジャータ・シン外務次官閣下の東京訪問.....	7
iii. 2014年さっぽろ雪まつりにおけるインド.....	8
iv. 2014年度インド大使館サクラフェスティバル.....	10
v. スワミー・ヴィヴェーカーナンダ岡倉天心生誕記念セミナー.....	13
vi. インド代表団の 東日本大震災「女川町追悼式」への参加.....	14
vii. バイオテクノロジー局局長K・ヴィジャイ・ラガヴァン博士の来日.....	14
viii. ICCRデー.....	15
ix. ヴィシュワ・ヒンディ・ディワスー 世界ヒンディー・デー in 日本.....	16
x. 前田専學教授 インド政府よりパドマ・シュリ勲章を授与される.....	17
xi. ビルジュ・マハラジ師によるカタック舞踊ワークショップ.....	18
xii. カタカリ舞踊劇日本公演.....	20
xiii. ママラプラム(マハバリプラム)ー石の詩.....	22
xiv. エンバーク・インフォメーション・テクノロジー社のサクセスストーリー.....	25
xv. インド料理ーチキンカレー.....	26

発行・製作 在東京インド大使館
協力 ディプロマティスト・マガジン
(L.B.アソシエイツ社刊)

Disclaimer: Although all efforts have been made to ensure complete accuracy of the text neither L.B. Associates (Pvt) Ltd nor the Embassy of India, Japan can accept responsibility for consequences arising from errors of omission or advice given.

L.B. Associates Pvt Ltd. • Email: info@lbassociates.com • Website: www.lbassociates.com



" We welcome your comments/ suggestions for improvement of this publication.
Please send your comments to fspic@indembassy-tokyo.gov.in "

2014年度のインド総選挙

インドでは、中央政府のメンバーを選ぶ総選挙が五年に一回行われます。この総選挙を通じて、インド国民はLok Sabhaと呼ばれる下院の議員を選出します。インド議会は、大統領、Lok Sabha（下院）、Rajya Sabha（上院）から構成されています。総選挙はインド選挙委員会の管理下で行われ、Lok Sabhaの543席が選出されます。Lok Sabhaの総議席数は545です。残りの2席は大統領により、少数派であるア

ングロ・インディアンコミュニティから指名されます。

2014年の総選挙は8億1450万人の有権者が関わる世界最大規模の民主主義の実践でした。自由で公平でスムーズな選挙を実行するために、1100万人以上の人員が動員されました。この選挙には、91万9452か所の投票所、187万8306台の電子投票機が使われ、約300の政党が参加しました。



2014年度インド総選挙に関する重要ないくつかの事実

インドは人口学的に若い国家であり、人口の66パーセントが35歳未満、そして7200万人近くが18-23歳の年齢層に属しています。2014年総選挙のための投票は4月7日から5月12日にかけて、10段階に分けて行われました。開票結果は5月16日に発表されました。

注：今回の選挙では、投票機に「上記のいずれも該当しない(None of the Above)」という項目が設けられました。これは、投票者がその選挙区から立候補したどの候補者にも投票する気がないことを意味しています。

最近発表された選挙結果によると、インド人民党(Bharatiya Janta Party, BJP)がこの総選挙で勝利を収め、282議席を確保しました。BJPは投票前すでに他党と連携していました。この連携は国民民主同盟(National Democratic Alliance)と呼ばれ、総選挙では合計336議席を獲得しました。ナレンドラ・モディ氏は2014年5月26日にインドの新首相に就任しました。選挙の最終演説を終えたナレンドラ・モディ首相は、総選挙は「国民の勝利、インドの勝利、投票の勝利」だったと述べました。

Vサインをするナレンドラ・モディ首相





選挙で選出された国会議員が集うインド議会。国会の審議もここで行われる



インド新首相のプロフィール

インド国民10億人の前に、まるで一筋の希望の光のように現れたのが、行動力、熱意、そして頑強な意志を併せ持ったナレンドラ・モディ氏です。インドを発展させるという揺るぎない意志や成果を導き出した実績と能力から、モディ氏は国民から最も熱い支持を受けている政治家の一人となっています。モディ氏は公約の中で、インドを国民一人ひとりが夢や希望を実現できる強く、豊かで包括的な国にする約束をしています。

4期にわたりインド西部、グジャラート州の州首相を務めたモディ氏は、インドのみならず世界的にも広く知られるようになりました。任期中、モディ氏は謙虚かつ誠実な行政サービスを提供する住民よりの行政を実現し、グジャラート州民の生活を一変させました。また、モディ氏は大地震の後遺症に喘いでいたグジャラート州をインドの経済成長を牽引する強力なエンジンへと変貌させました。

常に前線に立ち、グジャラート州全体の発展に取り組んでいたモディ氏は、州政府の構造をより効率的かつ公正で人道的に機能するよう改革・スリム化したのと同様に、州内に様々なインフラを整備しました。モディ氏のリーダーシップの下改革を進めたグジャラート州政府は、国連を含む国内外の様々な団体から300以上の賞を授与されました。モディ氏がグジャラート州を再生する事が出来たのは、偏にモディ氏の努力と子供のころに植え付けられた価値観の賜物です。モディ氏は、1950年9月17日にグジャラート州の小さな村に生まれました。愛情深くはありましたが、金銭的余裕のない貧しい家庭でした。若い時に苦労したことで、モディ氏は努力することの大切さだけでなく、一般市民が回避できる苦難に苦しめられているということも学びました。このことからモディ氏は、最後の一人まで奉仕するという『アンティオデヤ』(Antyodaya)の原理に基づき、州首相としての道を歩んできたのです。また、モディ氏は若いころから愛国者団体に所属し、国への奉仕活動に没頭してきました。モディ氏は国民生活の向上を第一に考える『庶民のリーダー』なのです。国民と共に過ごし、彼らの喜びを分かち合い、悲しみを癒すことにこの上ない喜びを感じるのです。現実世界での人脈作りを得意とするモディ氏ですが、ネットの世界でも存在感を発揮しています。IT技術に最も精通する政治家としても知られており、ネットというツールを駆使し、国民と直接対話し、彼らの生活の改善に取り組んでいます。フェイスブックやツイッター、Google+などのソーシャルメディアでも活発に情報を発信しています。政治活動の外では、本の執筆を楽しみ、詩集などの書籍を数冊出版しています。また、毎日の多忙な公務の中でも集中力を保ち、冷静さを失わないよう毎朝のヨガを習慣にしています。

勇気と思いやり、信念の塊であるモディ氏こそが、インド国民がインドを再び活性化し、世界を導く灯にして欲しいと願い、この国を託したリーダーなのです。



第15代インド首相として宣誓するナレンドラ・モディ氏



宣誓式に出席したS A A R C諸国の首脳、インドの首相と大統領

長嶺外務審議官
との名刺交換



ス ジャータ・シン外務次官閣下が2014年4月23日から27日にかけて、東京を訪問しました。東京での滞在中、シン外務次官は外務省の斉木昭隆外務事務次官閣下と二国間問題、地域間問題、国際問題について協議を行いました。また、シン外務次官は外務省の長嶺安政外務審議官閣下、杉山晋輔外務審議官閣下と会談しました。

スジャータ・シン外務次官閣下の東京訪問 (2014年4月23日—27日)



長嶺安政外務審議官とシン外務次官



杉山晋輔外務審議官とシン外務次官

シン外務次官は外務省での会議の他にも、防衛省（西正典防衛事務次官閣下）、経済産業省（石黒憲彦経済産業審議官閣下）国土交通省（榎野龍二国土交通審議官閣下）、国際協力機構（堂道秀明副理事長）にて協議を行いました。

また、シン外務次官は日本の主導的なシンクタンクや学界の専門家と「インドの外交—優先事項と見通し」をテーマとした対話型の円卓会議を行いました。また、東京訪問中に、各界における日本の女性のリーダーと面会しました。

シン外務次官は、年次首脳会談において決定された事項やプロジェクトの進捗について日本側と協議を行い、印日戦略的グローバルパートナーシップの勢いを維持するために来日しました。



杉山外務審議官と(外務省にて)

2014年さっぽろ雪まつりにおけるインド



HTB広場を飾った「イティマド・ウッダウラー廟」雪像



「イティマド・ウッダウラー廟」雪像のステージでバングラを踊る舞踊団



2014年2月5日から11日にかけ北海道で開催された第65回さっぽろ雪まつりに、インドは独特の彩りを添えました。2012年には印日国交樹立60周年を記念し、タージ・マハールを複製した雪像が制作されましたが、今回の雪まつりでも新たなインドの建造物が、札幌市の中心にある雪まつりの会場である大通公園を飾りました。今回選ばれた建造物は、17世紀にアグラに建てられた独創性に満ちた大理石造りの名建築「イティマド・ウッダウラー廟」です。一般に「ベイビー・タージ」と呼ばれるこの建造物は、1622年から1628年にジェハンギール帝の妻であったヌルジャハン王妃により、亡父を祭る霊廟として建てられました。実寸の60パーセントの縮尺で制作された、このイティマド・ウッダウラー廟の巨大な雪像は、雪まつり会場の他のほとんどの制作物を圧倒する存在感を放っていました。一週間続いたさっぽろ雪まつりは、日本国内および海外から200万人以上の来場者を集めました。

雪上のバングラ

雪まつりの白眉となったのが、インドの建造物を背景にインド北部、パンジャブ州で盛んな民俗舞踊・バングラの舞踊団が行った、活気あふれる公演でした。バルカー・シン・シドゥーが率いる12人編成のバングラ舞踊団は、カラフルな衣装、躍動感溢れるダンス、鼓膜を刺激するドラムビートで雪の舞台を彩りました。このユニークなバングラ舞踊の公演は札幌で話題となりましたが、おそらく地元の方々にとっては、初めての経験だったことでしょう。雪まつりが行われた週、バングラ舞踊団は札幌市長により主催された歓迎レセプションと、ニトリ文化ホールで2000人の聴衆を集めて行われた文化行事においても踊りを披露しました。

伝統とテクノロジーの結合

今年の雪まつりでの目玉となったのが、イティマド・ウッダウラー廟の雪像に「プロジェクション・マッピング」と呼ばれる新たな技術で映像を投影するプロジェクトです。仏陀の輪廻転生の死生観を表現した8分の短い映画が白い雪像に投影され、目にも鮮やかな効果を生み出していました。この雪まつりでは初めて使用されたプロジェクション・マッピングは東京の映像会社によりイティマド・ウッダウラー雪像のため独自に開発されました。期間中は毎夜8回ずつ投影が行われ、このショーのおかげでインドの雪像は雪まつりの一番人気となりました。



雪像に投影されるプロジェクション・マッピング



バン格拉舞踊団と一緒に踊る札幌市長

さっぽろ雪まつり開会式

第65回さっぽろ雪まつりが始まった2月5日、マイナス16度前後の気温の中、雪の舞台の上で見事な開会式が行われました。開会式の後、ディーパ・ゴパラン・ワドワ駐日インド大使と北海道テレビ放送株式会社の樋泉実社長の参加を得て、雪まつり会場の中心にあるHTTB広場において、イティマド・ウッダウラー廟の雪像の開幕式が行われました。

ワドワ大使はまた、このプロジェクトの主要後援者であるインド観光局が設けたカラフルな「インクレディブル・インディア」展示場の開幕式も行いました。エア・インディアも同プロジェクトの支援者として、雪像製作にかかわった8名にインド行きの航空券を提供しました。このおかげで雪像制作チームは、実物を精巧に再現した作品を作るため、複雑な模様細部に渡るまでイティマド・ウッダウラー廟を調査することができました。また、インドの料理と文化を紹介した各ブースは来場者に多大な人気を博し、HTTB広場のインドらしい雰囲気は完璧なものとなりました。

札幌におけるインディア・イブニング

2月5日、ワドワ大使はインド観光の振興のため、札幌パークホテルにて、「インディア・イブニング」を主催しました。この色彩豊かな夕べには、北海道副知事、札幌市長、さっぽろ雪まつり実行委員会会長を始めとする地元の名士がお集まりくださいました。また、在札幌のインド人コミュニティや北海道大学で学ぶインド人留学生も参加しました。「インクレディブル・インディア」をテーマとした美しい飾り幕を背景に行われたバン格拉舞踊団の公演は招待客の賞賛を浴び、来場した方々もステージに上り、舞踊団とともに速いビートに合わせて踊って下さいました。

イティマド・ウッダウラー廟雪像の制作

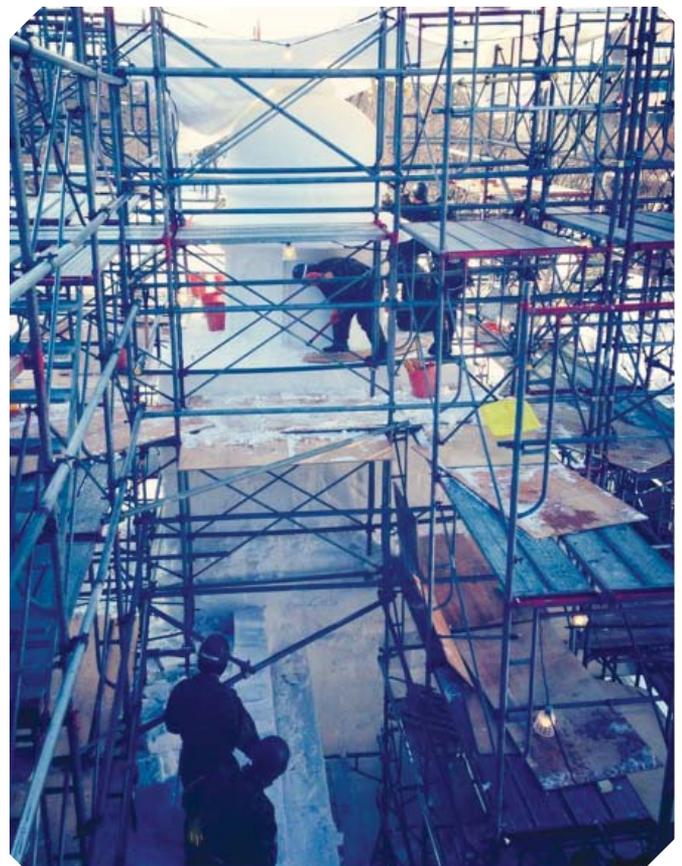
イティマド・ウッダウラー廟を雪で作りたいという夢は、ちょうど一年前に生まれました。インド大使館と北海道テレビ放送株式会社の間で、2014年を皮切りに、雪まつり会場にて5年に一度、インドの名建築を札幌の空にそびえたつような巨大な雪像で紹介しようという取り決めが交わされたのです。数回の会議の後、HTTB広場にふさわしく、また雪像制作を担当した陸上自衛隊チームが持つ特別なブロック建築の技術を生かせるイティマド・ウッダウラー廟を造ることが決定されました。この夢を実現するため、インド観光局、文化省とエア・インディアが協力して下さいました。北海道テレビ放送株式会社と陸上自衛隊のメンバーは、2013年11月、アグラにあるこの建造物を研究するためインドに向かいました。帰国後、雪像の設計図と建築計画が作成されました。総勢3800名の陸上自衛隊隊員が、30日間、合計2250トンもの雪を用いて雪像の制作に従事し、さっぽろ雪まつり開始の前夜、ついにこれを完成させました。実物のイティマド・ウッダウラー廟を建設した職人たちが、まさに第一級の芸術品という形容がふさわしいこの雪像を見たならば、この自衛隊の仕事に誇りに思ったことでしょう。



ディーパ・ゴパラン・ワドワ駐日インド大使より、雪像制作を担当した陸上自衛隊に感謝状が贈られた



インディア・イブニングで挨拶するワドワ大使



2014年2月20日



2014年度インド大使館 サクラフェスティバル

2002年以降、インド大使館は、お花見の季節に敷地内でサクラフェスティバルを開催しています。インドの美味しい食べ物、スパイス、衣料品、ワイン、靴、ジュエリーなど様々な商品が屋台で販売されます。また、ステージでは、コンテンポラリー、トラディショナル、クラシックなど様々なスタイルの音楽とダンスの公演やヨーガのデモンストレーションが行われます。これまで300~400人の日本人、インド人のアーティストが出演しました。フェスティバルの期間中、訪問者は舞台

での公演の他にも、ヘナで手に模様を施したり、インドの伝統的なサリーを着たりといった体験ができます。

今年のサクラフェスティバルは2014年4月2日から7日にかけて行われ、開会式では、最初に駐日インド大使ディーパ・ゴパラン・ワドワ閣下と首席公使サンジェイ・パンダ氏による点灯式、続いて日本人アーティストによるバラトナティヤムと Bollywood ダンスの舞踊公演が行われました。サクラフェスティバルは、訪問者が背景の桜とともに、バラトナティヤム、オディッシー、クチプディ、カタック、サムバルプリ、マニプリなどのインド古典舞踊のライブ公演を楽しめる場として人気を集めています。ワドワ大使は三日間、日本の貴賓をお招きして「サクラ・パーティ」を開催しました。





フェスティバルでは
様々な催し物が
行われました



山口那津夫公明党代表,
ワドワ大使,
石原伸晃環境大臣



シン国防武官,
シン経済商業担当公使,
比良竜虎在日インド商工会議所
会頭,
ワドワ大使,
町村信孝日印友好議連会長,
パンダ首席公使



海江田万里民主党代表と
ワドワ大使

スワミー・ヴィヴェ ーカーナンダ 岡倉天心 生誕150周年 記念セミナー

インド大使館はスワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心の生誕150周年を記念し、タゴール生誕150周年記念会とディスカバーインディアクラブ、そして日本ヴェーダーンタ協会と共同で、生誕記念セミナーと展示会をインド大使館インディア・カルチュラル・センターと大使館内アートギャラリーで2014年3月26日から開催しました。

生誕記念イベントは、ディーパ・ゴパラン・ワドワ大使、東京大学の富沢かな博士、ポストンヴェーダーンタ協会のスワミー・ティヤガナンダ師、上智大学の平野久仁子博士、日本ヴェーダーンタ協会のスワミー・メダサーナンダ師による開会式によって封切られました。生誕記念セミナーでは、岡倉天心のひ孫、岡倉登志さんがプレゼンテーションを行いました。



展示会開会式を執り行うディーパ・ゴパラン・ワドワ大使と日本ヴェーダーンタ協会のスワミー・メダサーナンダ師



スワミー・ヴィヴェーカーナンダ岡倉天心生誕記念セミナーでプレゼンテーションを行う岡倉天心のひ孫の岡倉登志さん



展示物を見学するディーパ・ゴパラン・ワドワ大使とスワミー・メダサーナンダ師

インド代表団の 東日本大震災 「女川町追悼式」 への参加

2014年3月10日から11日
 かけ、在東京インド大使館の
 サンジェイ・パンダ首席公使が
 率いる3名の代表団が、2011年3月の東
 日本大震災の際に起きた津波の犠牲者を追悼
 するため女川町を訪問しました。

代表団は、須田善明女川町長閣下を表敬しま
 した。須田町長は、津波後に多大な支援を
 寄せたインドの国民と国家災害対応部隊への
 感謝を表明なさいました。また須田町長は、
 インドと女川の相互の関係が将来にわたって
 続くことを心から望むとおっしゃいました。

代表団は女川町総合体育館で行われた追悼式
 にも参加しました。この式典には女川町長、
 小泉進次郎復興庁政務官、高橋仁宮城県教育
 長、安住宣孝前女川町長など他の日本政府高
 官も数名参加されました。



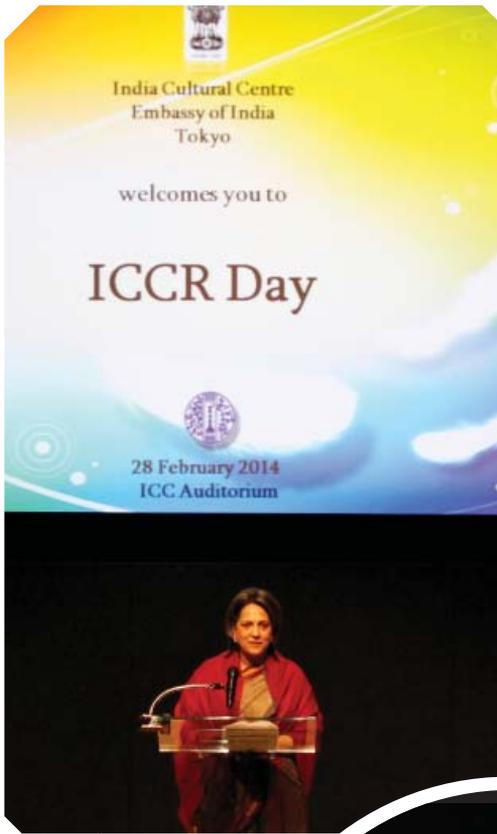
インド政府バイオテクノロジー局局长 K.ヴィジャイ・ラガヴァン博士の来日



インド政府バイオテクノロジー
 局局长のK. ヴィジャイ・ラガ
 ヴァン博士は、2014年5月11日
 から17日に開催された国際バイオテクノロジー
 展2014に参加するため、科学技術代表
 団と共に来日しました。ラガヴァン局長は
 インドバイオテクノロジー産業協会の展示
 会ブースの開所式を執り行いました。ま
 た、シンポジウムでは科学技術分野におけ
 る印日協力の進展状況について基調講演を
 行いました。

2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞し
 た山中伸弥教授がインド大使館を訪問し、
 ディーパ・ゴパラン・ワドワ大使とインド
 バイオテクノロジー局局长のK. ヴィジャ
 イ・ラガヴァン博士、インド大使館科学技
 術担当参事官と面会、科学技術分野におけ
 る印日間の協力強化について意見交換を行
 いました。

ICCRデー



イベントであいさつの言葉を述べる ディーパ・ゴパラン・ワドワインド大使閣下

インド文化関係評議会 (ICCR) とその活動内容をより広く発信するための取り組みとして、ICCRデーと銘打ったイベントが2014年2月28日にインド大使館で開催されました。イベントには、過去にICCR奨学金を利用してインドに留学し、様々な科目や芸術を学んだ元奨学生が招待されました。元留学生の代表がインド古典舞踊や民族舞踊や古典楽器や歌といった文化プログラムを披露しました。中にはインドでの忘れがたい経験談を語ってくれた方もいました。インディア・カルチュラル・センターの講師や受講生もイベントに参加しました。イベントには外務省の齋木尚子国際文化交流審議官と下村文部科学大臣夫人を来賓としてお迎えしました。



ソロパフォーマンスを披露するICCタブラ講師のラリット・クマール・デイクシット先生



寺原太郎さんによるフルートの演奏



ヒンドウスター二声楽を披露する元ICCR奨学生の根岸フミエさん



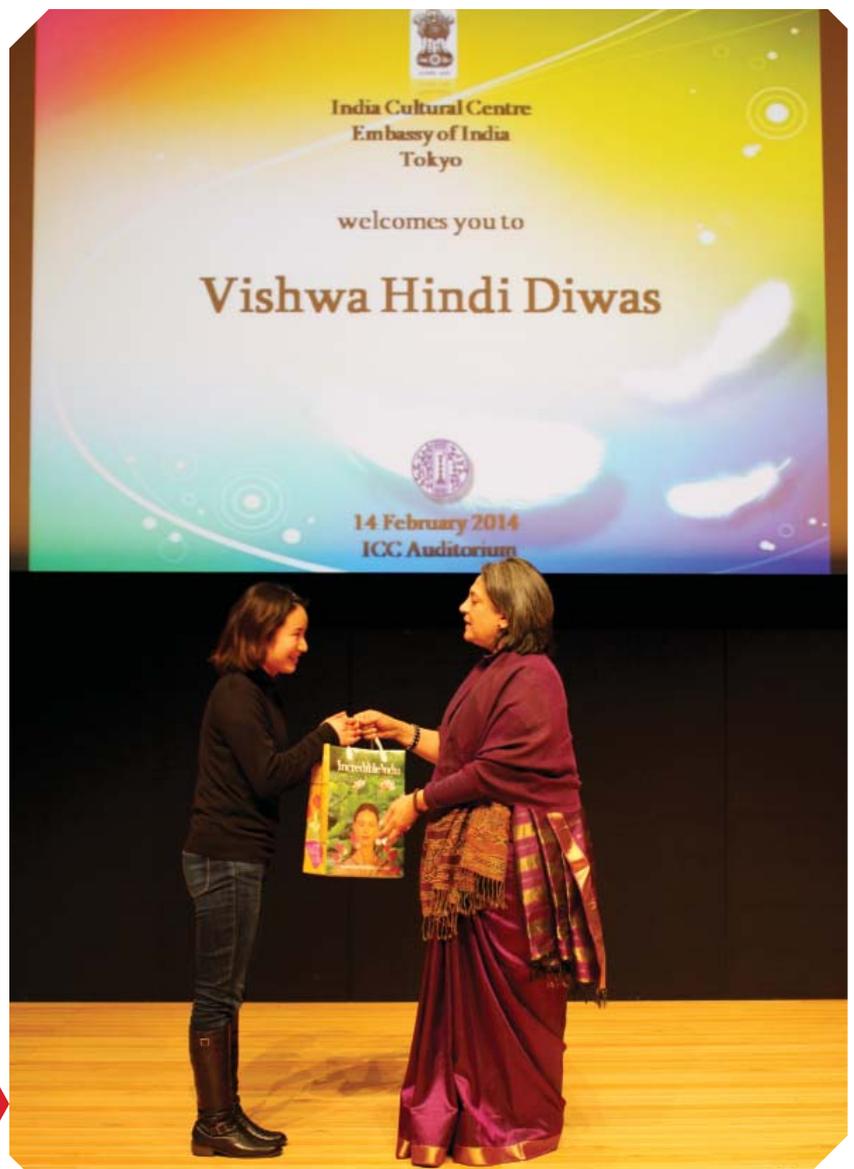
藤井毅博士
とワドワ
大使

世界ヒンディーデー

2014年2月14日、インド大使館はICC講堂でヴィシュワ・ヒンディー・ディヴァスを盛大に祝いました。イベントは、ディーバ・ゴパラン・ワドワ インド大使閣下の開会の言葉で始まりました。開会のあいさつを述べた後、大使はインド首相のマンモハン・シン博士から寄せられた祝辞を代読しました。

イベントには、日本在住のヒンディー語を母国語としないヒンディー語研究者や学習者が招待されました。ヒンディー語での即興スピーチコンテストや、学習者による体験談、ヒンディー語の詩の朗読などが披露されました。東京外国語大学ヒンディー語学科教授で著名なヒンディー語研究者である藤井毅博士は新たに企画しているヒンディー語研究の内容をヒンディー語で発表しました。また、ジャワハルラル・ネルー大学で博士号を修めた高倉嘉男博士がインド滞在中の体験談を披露しました。

大使から記念
品を受け取る
参加者



インド政府は、文学・教育分野における印日関係促進の功績を称え、中村元東方研究所理事長の前田専學東京大学・武蔵野大学名誉教授にパドマ・シュリ勲章を授与しました。

前田専學教授 インド政府より栄誉賞パドマ・シュリ勲章を授与される

前田名誉教授の受賞はインド共和国記念日の前日2014年1月25日に発表され、2014年4月26日にラシュトラパティ・パワン(インド大統領官邸)で開催された叙勲式典で、プラナブ・ムケルジー大統領より正式に授与されました。

今回の前田名誉教授のみならず、これまで多くの日本人がこの栄誉ある賞を受賞してきました。日本からはこれまで、中山太郎氏(2002年 政治部門)、司馬庄次氏(2012年貿易・産業部門)、辛島昇氏(2013年文学・教育部門)が受賞しています。

パドマ・シュリ勲章は、芸術、社会事業、政治、科学、エンジニアリング、貿易・産業、医学、文学・教育、スポーツや行政サービスなどの分野で卓越した貢献をした人物に毎年贈られています。



インド大統領よりパドマ・シュリ勲章を授与される前田博士

ビルジュ・マハラジ師によるカタック舞踊ワークショップ

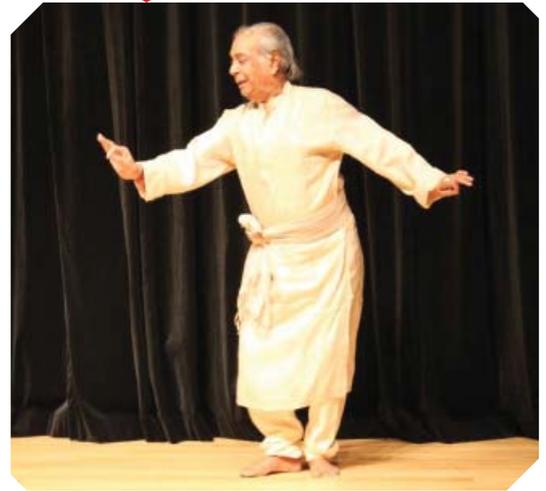
2014年5月13日、日本公演のため来日したインド古典舞踊カタックの巨匠ビルジュ・マハラジ師を迎え、インド大使館でカタック舞踊のワークショップを開催しました。代々続くカタック舞踊の家元マハラジ家の子孫であるマハラジ師は、ラクナウ派を代表するダンサーです。マハラジ師は世界中を精力的に飛び回り、何千もの公演やワークショップを各地で開催してきました。また、ニューデリーにカラシュラム舞踊学校を設立し、後進の指導に当たっています。



ビルジュ・マハラジ師に記念品を贈呈するインド大使館サンジェイ・パンダ首席公使



ビルジュ・マハ
ラジ師の演技





仙台市青年文化センター公演の様子



沖縄県与那原中学校でのカタカリ公演の様子

カタカリ舞踊劇 日本公演

カ ラマンドラム舞踊学校のゴパラクリシュナン団長が8名のカタカリ舞踊劇団を率いて来日しました。劇団はインド文化関係評議会に派遣され、2014年5月15日から29日の間、日本公演ツアーを行いました。劇団は沖縄県、奈良県、兵庫県(神戸市)、大阪府、富山県、岩手県、宮城県、東京都の1都7県の9都市を訪れ、計11回の公演を行いました。カタカリ舞踊劇は各地で歓迎され、多くの日本の観客がインドの伝統芸能を楽しみました。



インド大使館でのカタカリ公演の様子



岩手県陸前高田市 米崎市コミュニティセンター公演



インド大使館公演の様子

ママラプラム（マハバリプラム） - 石の詩

世界遺産とドラヴィダ文化の宝庫



美しいママラプラム・ビーチ

海岸寺院の夜景



ママラプラムとは？

「ママル」とは、ナラシンハ・ヴァルマン1世に献上された、「偉大なる戦士」という意味の敬称です。この地に残るシヴァ神・ヴィシュヌ神にささげられた寺院のほとんどが、ヴァルマン王の在世（紀元630年～728年）に建造されました。

寺院と砂と海の町であるママラプラムは、以前はマハバリプラムとして知られていました。ここには、世界的に有名な美しい海岸寺院があります。チェンナイからほんの60キロのところにあるこの街は、かつてはパッラバ王国の重要な港湾都市であり、後にはこの王朝の首都となりました。

ここでは、腰を下ろしてリラックスし、目の前に開けるこの美しい海岸の町の神秘を楽しんで下さい。

アルジュナの苦行

世界最大の岩壁彫刻、「アルジュナの苦行」は、「ガンガーの降下」とも呼ばれています。長さ27メートル、高さ9メートルの彫刻で、ママラプラムでは最上の場所です。この巨大な鯨の背中のような石には、神、半神半人、人間、獣、鳥などが彫刻されています。

このレリーフは、叙事詩マハーバーラタの5人の英雄の内の1人である敬虔なアルジュナの物語を表しています。アルジュナは、シヴァを説得し、彼の頭髪を使って聖なるガンガーの天からの降下を受け止めました。岩の隙間が、ガンガーが下りたところです。

クリシュナ・マンダバ

クリシュナ・マンダバは、全ての生き物の守り主としてのクリシュナ神を岩の壁に彫ったものです。

5つのラタ

ママラプラムの南端に位置する5つのラタは、自立した石彫寺院です。そのうち4つは1塊の大きな花崗岩から彫り出されたものです。この寺院は、以前存在した木造寺院を細部にわたって再現したもので、それぞれのラタ（神の乗り物）には、叙事詩マハーバーラタのパンダヴァと呼ばれる5人の英雄の名前がつけられています。ゴプラム（多くの柱と彫刻のある壁）とヴィマーナ（本堂）をもつ石造りのラタは、実物大の様々な種類の寺院



5つのラタ 寺院群



石窟寺院の岩彫様式



クリシュナのバターボール



の形をしており、7世紀のドラヴィダ人によって作られました

海岸寺院

南インドにおける最古の寺院の1つであり、7世紀後半にラジャシンハ王によって建造されたと言われています。この寺院は、ドラヴィダ様式で作られた初期の構造式寺院の優れた例です。ヴィシュヌ神とシヴァ神に捧げられた2つの寺院があり、東と西を向いています

石窟寺院群

ここには、13以上の石窟寺院があります。この岩をくりぬいて作った寺院は、マヘンドラヴァルマによって最初に作られました。マヒシャスラムルディニ窟には、女神ドゥルガが悪魔と戦う場面と、ヴィシュヌ神の眠る様子が描かれた逸品の彫刻があります。ヴァラーハ窟は岩をくりぬいた小規模のマンダバで、4つの素晴らしい壁と4つのレリーフから成っています

クリシュナのバターボール

ガネーシャ・ラタの近くにある巨大な岩は、「クリシュナのバターボール」として知られています。不安定な状態で小さな岩の土台に乗っています。伝説によれば、数人のパッラバ朝の王たちがこの岩を動かそうと試みたものの失敗し、王の象も1インチとして動かすことはできなかったと言われています。

野外美術館

この新設された野外の彫刻美術館には、サンガム時代のタミル人の文化遺産が展示されています。海岸寺院の非常に近くに位置しています。

彫刻大学

シルパ・シャストラに従って、様々な流派の寺院芸術・建築を教える大学です。この大学には展示ホールがあり、美しい伝統的な彫刻が展示されています。

ママラプラムへの行き方

- 最寄空港はチェンナイ空港 (55km)
- 最寄鉄道駅はチェンガルペット駅 (30 km)
- ママラプラムはチェンナイ、チェンガルペット、カーンチープラムと道路でつながっています。

チェンナイからママラプラムへ向かう、ティルヴァンミユール、ムトゥカドゥ、コヴェロンを通る東海岸道の脇には、椰子の木、水たまり、小川、緑の水田などが広がっています。また、多くのビーチリゾート、娯楽・プールなどの保養施設、美術工芸のリビング・センターがあります



インド エンバーク・インフォメーション・テクノロジー社の サクセスストーリー



シャイレンドラ・パンザル社長率いるインドのエンバーク・インフォメーション・テクノロジー社は、南アフリカ、アルジェリア、エジプト、オマーン、カタール、レバノン、アラブ首長国連邦、デンマーク、オランダ、ドイツ、フィンランド等40か国にパートナーを持つ多国籍企業に成長しました。エンバーク社はGPSを利用した車両追跡・フリート管理ソフトウェアを開発しました。世界第五位の車両追跡管理システム会社で、伝説的なシステム『Find n Secure』を開発したことも知られています。同社は、ハードウェア、ソフトウェアの両面を備えた革新的かつコスト効率の良い車両追跡システムの提供を目指しています。エンバーク社が提供するシステムにより、企業や個人ユーザーはオフィスや自宅に居ながら、乗用車、ジープ、トラック等、所有する車両の位置情報を監視・管理することができます。また、車両

だけでなく従業員やドライバー、またはその他、移動可能な資産の動きも監視できるようになります。

エンバーク社は最近、ドバイ警察と最新鋭の車両追跡管理システムを提供する契約を結びました。このシステムはアラブ首長国連邦内を走行するすべての車両を対象とし、事故現場付近にいる車両情報を確認し交通の安全性を高めたり、犯罪車両を追跡し犯罪者の確保につなげたり、必要に応じて車両の遠隔操作も可能にします。

協力： インド電子機器コンピューターソフトウェア輸出振興会 (ESC)

免責条項： この記事はインド企業の成功事例を紹介するために出版人が掲載したもので、その他の意図はございません。



チキンカレー

Chicken Curry

具

をたっぷり入れるのがインド流、鶏肉も一人当り胸肉1枚を使います。

鶏肉は皮と脂肪をきれいに取り除きますから、よりあっさりとしてヘルシー。

チキンカレーにもいろいろありますが、これはごくオーソドックスなマイルドな味です。

(レシピ提供：ミラ・メータ)

【作り方

- 1 鶏肉は皮と脂肪をきれいに取り除き、一口大に切る。玉ねぎはみじん切りにする。
- 2 鍋に油を入れて火にかけ、Aを炒め、はじけてきたら玉ねぎを

入れて薄いきつね色になるまで炒める

- 3 炒めた玉ねぎにBを加えてかるく炒める。

- 4 続いて鶏肉を入れてかるく混

ぜ、ヨーグルト、水2カップ強を加えて強火にかけ、沸騰したら火を弱め、しょうが、塩を入れて20～30分煮込む。

- 5 鍋の表面に、油が浮かんできたらでき上がり。

材料】 (4人分)

鶏胸肉 4枚
玉ねぎ 中3個

A

シナモンスティック 3cm
黒こしょう
ベイリーフ 1, 2枚
赤とうがらし 1本

B

ターメリック 小さじ3/4
コリアンダーパウダー 小さじ2
クミンパウダー 小さじ2
レッドチリパウダー 小さじ1/2
トマトピューレー 300cc
ヨーグルト 大さじ3
しょうが 梅干し大 (すりおろす)
塩 小さじ2
サラダ油 大さじ2～3



35th
India
Garment Fair

IGF
Osaka

第35回インド衣料品展
IGF大阪

25th
India Home
Furnishing Fair

IHF
OSAKA

SILVER JUBILEE EDITION

第25回インド家庭用品展
IHF大阪

25周年記念展

July 23 - 25, 2014
Venue: Mydome Osaka,
Hall 1A, 2BCD & 3EF

2014年7月23日～25日
マイドームおおさか
ホール3 EF 2BCD 1A

Supported by
Embassy of India, Tokyo, Japan
Consulate General of India, Osaka-Kobe, Japan



Organizer



India Trade Promotion Organisation
Pragati Bhawan, Pragati Maidan
New Delhi-110001

PR Agency:
Nanala Japan Limited
541-0054
708 Sanka bldg., 1-3-9,
Minamihorinashi, Chuo-ku, Osaka, Japan
TEL:06-6264-5530/FAX:06-6264-5540



後援
インド大使館
インド総領事館大阪・神戸（日本）

主催者
インド貿易振興局
プラガティ・マードン、プラガティ・マイダン
ニューデリー - 110001

PR担当:
ナルラジャパン株式会社
〒541-0054
大阪市中央区南本町3-3-9 サンコービル708
TEL: 06-6264-5530 FAX: 06-6264-5540

A photograph of two tigers in a forest at sunset. The tigers are standing on their hind legs, facing each other, and appear to be in a playful or social interaction. The background is filled with tall grass and trees, with a warm, golden light from the setting sun filtering through the branches. The overall mood is serene and majestic.

Incredible India

www.incredibleindia.org

Join the Celebrations. Dance with the Locals.

Feel the spirit and exuberance of India's youth.
In villages, cities and jungles.